

令和4年度 入学式 告辞

入学生みなさん、ようこそ石川高専へ。また、ご家族、関係者の皆さま、本日は誠にありがとうございます。

今日の佳き日に、令和4年度の石川工業高等専門学校入学式を挙行できますことは、私も教職員及び在校生一同の大きな慶びであり、ご臨席の皆様方に対し心から御礼申し上げます。

本日は、新型コロナ感染拡大を防止するため、各入学生関係者の参加はお一人のみとし、式典の様子を別室にライブ配信させていただいております。

本年度は、第1学年に入学する学生210名、第3学年に編入学する留学生3名、そして専攻科に入学する学生26名、合わせて239名の入学生を迎えることになりました。

石川高専は、我が国の発展のため不可欠である、産業技術と社会を支える実践的創造的な技術者を養成するための、国が設置する全51校の国立高専の一つです。昭和40年に自然豊かな石川県津幡町のこの地に設立されて以来、8,993人にも達する卒業生の先輩方は、産業や行政などさまざまな世界で活躍され、科学技術創造立国を担ってこられました。

さてここで、入学生の皆さん。冒頭、私は、皆さんには入学おめでとうとは言いませんでした。気付かれたでしょうか。

高専は本科の5年間で、高等学校から大学学部の7年間に匹敵する教育を行います。多くは中学校を卒業したばかりの皆さんが、実践と創造への志をもつ皆さんが若い感性を持つうちに、確固たる技術者として自立していけるよう育てたい。そのために高専のカリキュラムは高校・大学より大変なものになっています。大学入試という区切りを越えるために貴重な時間と気力を割く必要はありませんが、しかし、本校入試を乗り越えた優秀な皆さんにとっても、容易いものではないはずです。

しかし、恐れる必要はありません。皆さんは、創立以来の多数の卒業生が勝ち得てきた信用の蓄積の上で学ぶことができるのです。教職員が皆さんをしっかり支え導くことはもちろんですが、同じ日に入学を迎えた多くの仲間が助け合い切磋琢磨してくれます。上級生達も仲間としてあるいは先輩として、学業や課外活動を通じて模範を示し、皆さんが学んでいくうえで助けになるでしょう。そして、地元石川県の企業や自治体など多くの方々が、皆さんが立派な技術者となり我が国の未来を担っていつてくれることを期待して、実践や研究の場あるいは貴重な資金や機会の提供などで、皆さんの学びを支えてくれます。

本校に入学するということは、技術者として未来の社会を担っていくという皆さんの志に、大きな期待を寄せられ、その志の実現を目指す皆さんの努力には様々な方々から多大な支えや助けを受られる、そういう素晴らしい環境を得るということです。その有難さは専攻科入学生の皆さんは既に実感されていることでしょう。

そういう意味で申し上げます。入学生の皆さん、おめでとう。

さて、ここでもう一つ付け加えておきたいことがあります。実践的創造的な技術者への期

待というのは当然、皆さんにそのように活躍してほしいという、地元石川県そして我が国の人々の期待です。

しかし、少子高齢化や多様化が進む社会で、技術で社会の期待に応えるのは、実は大変なことです。例えば SDGs とひとまとめに呼ばれる諸課題も、その内容は非常に多岐にわたり、またそれぞれの状況に応じ様々な次元の対応が必要です。あるいは Society5.0 などは技術を創造し提供する基礎であると同時に、技術に人への優しさを求める要因かもしれません。独創的革新的技術が独り善がりであってははいけませんし、客観的に善くともそれが広く安心して善いと理解されなければ、社会実装は困難です。

みなさんには、これからの時代の技術者として、専門とする領域だけでなく他の技術領域についても知見を深めることは当然、社会制度の意義なども理解し、究極的には人の心や願いにも思いを致して、本当に喜ばれる技術を創造し社会実装に繋げる技術者になってほしいのです。そのために簡単な近道は無いことでしょう。まずは、本校で技術者としての専門知識・技能を学ぶとともに、課外活動などの場も含め、様々な活動、体験、試練を通じて、人としての感性を育て、他者の心や願いを理解できるよう、心がけてください。

さて、我が国の高専の制度は、社会を担う技術者養成の仕組みとして諸外国からも関心を寄せられています。今年もチュニジア、マレーシア、カンボジアから計3人が編入生として留学してくれました。言葉も環境も違う日本で勉強することは大変なことだと思いますが、早く多くの友人を作り津幡の生活にも馴染んで、思いきり日本の生活を楽しんでください。将来は、皆さんの国と日本の技術交流、文化交流の懸け橋となってくれることを希望いたします。

専攻科に進学した26名の皆さん、これからの2年間、本科で培った基礎の上に、より深い専門性と複数の専門領域にまたがる複合的視野を持つ総合技術者としての基盤を身に付け、将来、人間性豊かなイノベーション技術者として活躍してください。

最後になりましたが、どうか本日の感激を忘れず、皆さん一人ひとりの夢の実現のため、自分の可能性を信じ、志を高く持って、高専生活を過ごしていただきたいと思います。

また、保護者関係者の皆様方に改めてお祝いを申し上げますとともに、家庭と学校の密接な連携を保ち、本校への積極的なご支援とご助言を切にお願い申し上げます。

重ねて、本日入学される皆さんをお祝いし、校長告辞といたします。

令和4年4月7日

石川工業高等専門学校長 嶋 倉 剛